

DELPHION

Log Out | [Work Files](#) | [Saved Searches](#)

RESEARCH | PRODUCTS | **INSIDE DELPHION**

My Account

Search: Quick/Number Boolean Advanced Derwent Help

No active trail [Stop Tracking](#)

The Delphion Integrated View: INPADOC Record

Buy Now: ☒ PDF | [File History](#) | [Other choices](#)

Tools: Add to Work File: ☐ Create new Work File

View: Jump to: ☒ Email this to a friend

Title: JP54120709A2: SHISHITSUKAIZENYOTANSANKARUSHIUMUSURARIICALCIUM CARBONATE SLURRY FOR IMPROVING PAPER QUALITY

Country: JP Japan
Kind: A2 Document Laid open to Public inspection
Inventor: IRIYAMA NOZOMI;
GOTOU TOSHIHISA;
YAMANE SHINJI;

Assignee: MARUO CALCIUM
[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

Published / Filed: 1979-09-19 / 1978-03-04

Application JP1978000024788

Number: Advanced: [C09C 1/00](#); [C09C 1/02](#); [D21H 19/38](#);
IPC Code: Core: [D21H 19/00](#); [more...](#)
IPC-7: [C09C 1/02](#); [D21H 1/22](#);

ECLA Code: None

Priority Number: 1978-03-04 JP1978000024788


Family:

Buy PDF	Publication	Pub. Date	Filed	Title
<input checked="" type="checkbox"/>	JP54120709A2	1979-09-19	1978-03-04	SHISHITSUKAIZENYOTANSANKARUSHIUMUSURARII
1 family members shown above				



Forward
References:

Go to Result Set: Forward references (1)

Buy PDF	Patent	Pub. Date	Inventor	Assignee	Title
	US5879442	1999-03-09	Nishiguchi; Hiroyuki	Okutama Kogyo Co., Ltd.	Aqueous slurry of precipitated calcium carbonate and ground calcium carbonate in combination

Other Abstract
Info:

CHEMABS 092(08)060736D



Nominate this for the Gallery...



Subscriptions | Web Seminars | Privacy | Terms & Conditions | Site Map | Contact Us | Help

Copyright © 1997-2009 Thomson Reuters

⑫ 公開時報 (A)

昭54-120709

識別記号 ⑤2 日本分類 庁内整理番号 ④3 公開 昭和54年(1979)9月19日

⑤2 日本分類

片内整理番号

発明の数 1
審査請求 有

⑤ Int. Cl.²
D 21 H. 1/22 //
C 09 C. 1/02

(三) 3 (頁)

⑤4紙質改善用炭酸カルシウムスラリー-

②特 願 昭53-24788

證 日 53(1978) 3 月 4 日

⑦2 發明者 入山望

茨城県稲敷郡阿見町阿見原5388
丸尾カルシウム株式会社土浦

工管內

後藤寿久

□

⑦出願人 丸尾カルシウム株式会社

畢管工·

茨城県稲敷郡阿見町阿見原5388
丸尾カルシウム株式会社土浦

⑫ 發明者 山根臣司

工場内

茨城県稲敷郡阿見町阿見原5388
丸尾カルシウム株式会社土浦

実施例 1

平均粒子径 1.3μ の天然粉砕炭酸カルシウム (バグター) と図形分度度 50.2 重量% の沈降炭酸カルシウムを固形分比 $9:1$ の割合で混練り、ボリマロン (20重量%) を添加して炭酸カルシウムを規定量、乾り台に入れて 0.2 多、水を規定量、乾り台に入れて早上高速回転機ミキサーに投入し、十分に混ぜて固形分度度 60 重量%、見掛粘度 11.3 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを得る。

実施例 2

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 $8:2$ の割合で固形分度度 60 重量%、見掛粘度 10.8 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを得る。

実施例 3

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 7

ラリー (固形分度度 $50 \sim 75$ 重量%) を与えるも

のである。

すなわち、本発明は平均粒子径 $1.0 \sim 1.5 \mu$

の天然粉砕炭酸カルシウム (バグター) が $80 \sim$

50 重量% であるのに対して、固形分度度 $45 \sim 55$ 重量% の沈降炭酸カルシウムスラリーを固形分と

して $10 \sim 50$ 重量% 配合し、強力な攪拌を行なう

ことにより全固形分度度を $50 \sim 75$ 重量%、換算

すれば、古水率 $50 \sim 25$ 重量% の高濃度炭酸カル

シウムスラリーを提供するものである。

本発明において使用される天然粉砕炭酸カル

シウム (バグター) は沈降炭酸カルシウムに比

べ、比表面積が小さく紙面強度維持のためのバ

グターの使用量を低減できるという利点があ

る。また、沈降炭酸カルシウムは平均粒子径 0.1

$\sim 0.5 \mu$ であり、分散性もよいので紙面強度用紙

用として広く用いられているものである。

以下実施例により本発明をさらに詳細に説明

する。

得る。

実施例 4

100 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを

3 の割合で固形分度度 60 重量%、見掛粘度

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カ

ルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 6

95 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを得

る。

実施例 5

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カ

ルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 5

93 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを得

る。

5 の割合で固形分度度 60 重量%、見掛粘度

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カ

ルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 5

93 CPS の高濃度炭酸カルシウムスラリーを得

る。

実施例 1 と同様な方法を用い天然粉砕炭酸カ

ルシウムと沈降炭酸カルシウムの固形分比 5

紙質と、比較対象として無配合の炭酸カルシウ

ム、換算すれば、比較例 1 として平均粒子径 1.3

μ の天然粉砕炭酸カルシウム (バグター) のみ

德 己 美

※ フライエツクおひびカエツトビツクは、魚藻類、
/(悪い)ー、/(良い)

聖 / 龍

第 3 表

体に対する自分率を比較割合とし、その結果を

リ一を得る。

、十分かきまぜて固形分濃度50.0直掛し、兎耳
、母わせて早上高速回転ミキサーに投入し
粘度95 CPSの調整度比降性炭酸カルシウムスラ

0 4 6 7 0 8 9 1

～5の炭酸カルシウムスラリーは、天然の砂炭酸カルシウムの混合割合が90～50%と多いにも

この表から明らかなように、比較例3の天然
粉砕酸酸カルシウムスラリーは比較例4が純日
とともに見られる。一方、本発明による実施例1